

島根のボタン、初開花

前長者の故郷 出身者発案

東寺

京都市南区の東寺(教王護国寺)で、2019年秋に植えられたボタンが咲き始めた。同寺前長者の砂原秀雄さん(故人)の故郷、島根県との縁で、同県人会が協力して開花に結びつけた。

島根は全国一のボタンとの縁が結ばれたといふ。農家が丹精したボタン産地。特に松江市太う。

根島は、全国最多の70万本の苗を毎年出荷する。だが、ボタンは手入れが難しく、枯れたり、大きく咲かなかった。

同島で生まれた男性が、十数年前に砂原前長者に拝見しても、会員が窮状を見かね、贈って同寺とボタン。江市などに働きかけ、

農家が丹精したボタンの52株を、五重塔近くの約10区画に植え、土も入れ替えた。

今月中旬までに、新品種「あらさき」が深紅の花を咲かせた。名前は五重塔の通称「あらさき」にちなんで、

砂原前長者の長男の砂原秀雄氏(75)が名付けた。

近畿松江会の事務局長谷崎さん(67)は「昨年亡くなった砂原前長者も計画を画っていた。素晴らしい場所だ。素晴らしい」と語る。

東寺は、隠岐に流された後醍醐天皇が信仰を寄せるなど、かねて同県とのゆかりが深い。砂原前長者は「すべての縁が繋がった。一生懸命に育て、きれいに咲き誇らせた。新型コロナウイルスの感染が終息したら多くの方に見てほしい」と話す。

ボタンは、5月初旬までさまざまな品種が花をつけるという。

東寺では22日から当面の間、有料拝観区域への入場ができない。ボタンは拝観停止の区域にある。



赤い花を咲かせた「あらさき」に手をやる砂原秀雄氏(故人)

(京都市南区・東寺)

(島根県)